



## ◇ 英語を学び、英語を活かす！今回は、山中沙弥香さん（同志社大卒）のレポートです！

私は同志社大学 文学部英文学科を卒業後、建材メーカーに就職しました。職種は海外営業、海外のお客様を訪問し製品をPR、販売、交渉をしています。市場調査も行い、今この国ではどのような製品に需要があるのか調べることも仕事のひとつです。

学生の時に力をいれた英語を武器に活躍したいと考えてきたため、私は現在夢を叶えて働いているという充実感を日々感じています。今回、卒業生として自身の事を書く貴重な機会を頂きましたので、高校、大学時代と現在の仕事についてお伝え致します。関高校を目指す方、また国際的な仕事がしたいという夢を持っている方の参考になれば幸いです。

### 英語中心の高校・大学生活

高校時代に力を入れて取り組んできたのが、毎年行われる英語弁論大会、スピーチコンテストでした。英語で自分の考えを5分～10分程度で話し、その表現力、英語力、内容を競う大会です。大会参加にあたり、三年間私をサポートしてくれたのが当時の関高校のALTの先生（アリッサ先生）と校長先生（鬼頭靖尚先生）でした。ALTの先生とは英語でしか意思疎通が出来なかったため、スピーチで私が伝えたいことを説明する際や先生からのアドバイスの意味が分からない等多くの場面で苦労しました。ネイティブの先生との日々のスピーチ練習は、より流暢に英語を話したいというモチベーションに繋がりました。



結果、県大会に出場すること出来ましたし、スピーチコンテストに挑戦して本当によかったと、今でも感じています。部活動ではなく個人での出場にも関わらず、放課後の練習にALTの先生や当時の校長先生が協力して下さる等生徒へのサポートが手厚い点が、関高校の先生方の良いところと言えるのではないでしょうか。

結果、県大会に出場すること出来ましたし、スピーチコンテストに挑戦して本当によかったと、今でも感じています。部活動ではなく個人での出場にも関わらず、放課後の練習にALTの先生や当時の校長先生が協力して下さる等生徒へのサポートが手厚い点が、関高校の先生方の良いところと言えるのではないでしょうか。

### お世話になったALTのアリッサ先生に会うため、ニューヨークへ行きました(上写真)。

そして、進学した同志社大学ではネイティブの教授による全て英語の授業を受け、レポートも英語で書く等、英語に囲まれた学生生活を送りました。在学中にはカナダ留学も経験し、それまでの「読む」「書く」といった机上の学習ではなく、「話す」「聞く」能力が中心となり、より幅広い語彙力とリスニング力が身につきました。また、外国人観光客の多い京都のスターバックスコーヒーでのアルバイトも、日常的に英語に触れるよい機会でした。

あまり大きな声では言えませんが、私は理系科目が昔から不得意で、現在も仕事で数字や化学の分野に関わると閉口してしまいます。一方で文系科目、なかでも英語は楽しく学ぶことができ、この力を伸ばし、英語力で大学進学を目指したいと考えていました。今、海外営業として働くことができるのは、学生時代に英語に時間を費やしたおかげです。もちろん、諦めず全ての教科で良い成績を残すことがベストですが、得意な事を武器に出来るまで磨くことも大切だと思います。



**大学ではバスケットボールに入り、多くの友人ができました(上写真)。**

## 入社一年目で海外営業に

冒頭で述べましたが、私は入社してから現在に至るまで海外営業として働いています。これまで仕事で訪問した国は、シンガポール、インドネシア、マレーシア、香港、マカオ、インド等様々です。お客様は現地の住宅オーナー、設計、ゼネコンで、全て英語で営業活動を行なっています。

入社当初、日本語でも理解できないビジネスの流れを、しかも外国で、英語で学んでいかなければなりませんでした。日本人の上司以外、同僚は全員現地の人、仕事の打ち合わせや会議も全て英語のため、日常英語ばかり使っていた私にとって、最初の一年は分からないことも多く苦労の連続でした。現在も、国の文化や事情を知らず失敗することもあります。信頼関係を築いてきた同僚と協力し合い、助けをもらいながら働いています。

日本人として、海外営業になってよかったと感じるのは、「メイドインジャパン」に対する信頼がどの国でも厚いという点です。日本のメーカーが、しかも日本人が商談に来たとなれば、普段現地メーカーの営業が門前払いとなる場面でも話を聞いて頂けることがあります。日本製なら品質もいい、安心安全という声を毎日のように頂き、日本に対する各国のイメージの良さを感じていますし、良いイメージを持っていただいている以上、その期待に応える対応をしたいと思っています。



**お客様との商談(上段は香港、下段はインドネシア)。**

## 最後に

海外で働く中で私が感じたのは、「英語が話せる」と「グローバルに活躍できる」はイコールではないことです。言語ができるだけなら、現地人を社員に雇用する方が、人件費も安く、文化も理解出来るため日本人は現場に必要ありません。なぜ、人件費が高くても日本人が現場に必要なのか、を理解し実践できて初めて、活躍できたと言えるのではないのでしょうか。

例えば私の場合、職場で日本人が必要とされる理由、それは「メイドインジャパン」を裏付ける真摯な対応を見せるため、日本に対する信頼を利用してチャンスを作るため、高レベルな日本の建築文化を海外の設計に説明するため、等が挙げられると思います。働く上で、現地の文化への理解は必要ですが、真似をする必要はないと考えます。私自身も、海外ならではの友達感覚の人付き合いだけでなく、時間厳守、身だしなみ、マナー等、日本人らしさを大切にしながら、これからも現地の社員、お客様と関係構築をしていきたいです。皆さんには、語学力を磨きつつ、海外でリスペクトされる日本人像とはどのようなものかを意識しながら、今後の生活を送って頂きたいと思います。

将来、日本を世界に発信する皆さんの活躍を心より期待しています。